

クラス	TU301	担当教員	赤石憲昭
テーマ	こども哲学の理論と実践		
著書・論文	「現代日本における承認問題：ホネットの承認論とその展開」 『社会文化研究』第20号、晃洋書房、2018年、7-33頁		
研究課題等	「ヘーゲル『論理学』判断論の訳と注解（2）定存在の判断」 『ヘーゲル論理学研究』第25号、2019年、65-103頁		
	「スマホをやりすぎると人間になれない!? スマホ世代の人間観と承認をめぐる問題」 『共に生きる場を拓く：私たちの「仕合わせ」づくり』一粒書房、2019年、37-59頁		
	「ホネットの承認論と社会福祉：『社会福祉の原理』と『人間の尊厳』の実現について」 『唯物論研究』第150号、2020年、90-102頁		
	研究課題：「人間のあるべき姿」の探求（ヘーゲル哲学、批判的社会理論）		
ゼミナール概要			
キーワード：こども哲学・人間・社会・対話・承認			
『ちいさな哲学者たち』という映画をご覧になったことはあるでしょうか？			
<p>この映画は、フランスのある幼稚園で、3歳から5歳のこどもたちと行われた哲学対話の様子を記録したものです。実際に観てみると、小さな子どもたちが、「愛とは何か」「賢いとはどのようなことか」などの哲学的問いについて、自分の考えを言い合っている様子にとっても驚かされます。このような哲学対話の取り組みは、海外では広く行なわれています。</p> <p>日本でも、一部の保育園や幼稚園、小学校や中学校・高校において、すでに実践がなされています。また、「主体的・対話的で深い学び」、「考え、議論する道徳」の教科化、新科目「公共」の創設などの教育をめぐる新しい動向のもと、「こども哲学」の取り組みがあらためて注目されるようになってきています。</p> <p>本ゼミでは、3年次は、この「こども哲学」を共通テーマとして、それがどのようなものであるかを学習し、また、自分たちでも実際に行なってみて、最終的には、各自がさまざまな場面で実践できるようになることを目指します。</p> <p>最近では、こども哲学のイベントはもちろんのこと、哲学カフェなどの大人向けの哲学対話のイベントが数多く開かれ、愛知でも行われています。状況が許せば、そのような所にも出向くことができればと思います。</p>			
<p>◎「こども哲学」については、いろいろな文献・資料が出ていますが、その中から以下のものを取り上げて、理解を深め、実践できるようにします。とくに太字のものはゼミ費で購入して共通テキストにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せる：こどもを育てる哲学レッスン』河出書房新社、2018年 ・こども哲学 おとな哲学 アーダコーダ『こども哲学ハンドブック』アルパカ、2019年 ・犬てつ編『こどもと大人のてつがくじかん てつがくするとはどういうことか?』Landschaft、2020年 ・p4c みやぎ出版企画委員会『子どもたちの未来を拓く探究の対話「p4c」』東京書籍、2017年 ・リヒテルズ直子『てつがくおしゃべりカード』ほんの木、2017年 ・オスカー・ブルニフィエ『自由って、なに?』『よいこととわるいことって、なに?』朝日出版社、2020年 			
<p>4年次は、卒業論文作成に重点を移します。前期は、それぞれの研究テーマに関わる文献紹介、後期は、卒業論文の部分発表などが中心となります。研究のテーマは、自由に選んで頂いて構いません。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>今回取り上げる「こども哲学」は、何の予備知識もないことを一つのウリにしているものではありますが、ゼミ選択は、担当教員との相性もあると思います。担当教員の授業をすでに受講したことのある人（哲学概論と世界シリーズの既履修が望ましい）や、担当教員のように「品のある人」を歓迎します。「こども哲学」は今後ますます注目されてくると思いますので、この機会にぜひ学習して、教育の現場等で活かしてください！</p>			